

〈調査報告〉

黒川セツさんの伝承 1：アペクンチとペクンチの伝承

北海道立アイヌ民族文化研究センター

研究紀要

第9号

2003年3月25日発行

貝澤 太一



## 〈調査報告〉

---

# 黒川セツさんの伝承 1：アペクンチとペクンチの伝承

貝澤 太一

目次

- I. はじめに
  - 1. 報告のねらい
  - 2. あらすじ
  - 3. 関連・先行研究
  - 4. 貫気別の概要
- II. 調査経過
- III. 黒川セツさんの語り
  - 1. 凡例
  - 2. 本文

参考文献

## I. はじめに

### 1. 報告のねらい

この報告は、平取町貫気別在住の黒川セツさんから聞き取りを行ってきた記録から、セツさんが暮らす貫気別近辺にある「アペクンチ」と「ペクンチ」について、祖父母や近隣の古老達から伝え聞いた話やセツさん自身の体験などをまとめたものである。

黒川セツさんは、1926（大正15）年平取町貫気別に生まれ、以来この地で暮らしている。幼少のころ母方の祖父母と暮らした時間が長かったこと、セツさん自身が非常に旺盛な学習欲を持ち、見たり聞いたりしたことを良く覚え身につけてきたこともあって、祖父母、父母のほか、貫気別コタンとその近隣に暮らしていた人たちから、この地域のアイヌ文化に関することはもちろん、様々な生活知識を学び、さらに近年では実際の暮らしの中でその知識を実践するなどの体験を重ねてこられた。

黒川セツさんからの聞き取り調査は、セツさんが豊富な知見を有しているアイヌの植物利用に関するお話を伺うことを中心としつつ、そこから広がる様々な話題にも及んだ。その一つにあるのが、

セツさんが体験した、かつて食材や薬草となる植物を採取する際に行った場所についての話題であった。実際に同行していただき、その場所を訪れ、地形や植物のようすを前にした聞き取りなども行ななかで、様々なアイヌ語や植物に関する言い伝え、地名やそこにまつわる話などを聞かせていただくことができた。

今回の報告は、このようにして蓄積した聞き取り記録の報告の第1回にあたる。今回報告するのは、黒川セツさんの暮らす貫気別にごく近い地域に関する聞き取り調査の記録である。今後、額平川・貫気別川流域の地名に関わる伝承のほか、植物利用などに関する記録を順次報告していく予定である。

これらの報告が、常々「ワシの話すことを残してほしいなあ。」と話してくださる黒川セツさんの希望に応えるものに、少しでも近づくことができれば幸いに思う。

## 2. あらすじ

黒川セツさんが聞かせてくれた「アペクンチ」と「ペクンチ」の伝承は、何度かの聞き取りのなかで細部が少し変わったりするものの、話の筋としては次のとおりとなる。

額平川と貫気別川の合流点付近の左岸にある小山<sup>(1)</sup>には「アペクンチ」という名前が付けられている。そして、この山から見て「荷負沢」を挟んだ対岸にある山の先端<sup>(2)</sup>には「ペクンチ」という名前がついている。どちらにもそれぞれカムイ<sup>(3)</sup>が住んでいるが、非常に仲が悪くいがみ合っていた。

あるとき、「アペクンチ」とそのふもとにある「チャシコチ」が大火事になり、その火はしばらく燃えつづけた。慌てた「アペクンチ」は、「ペクンチ」に火を消してくれるようお願いした。すると「ペクンチ」は快く火を消してくれ、以後「アペクンチ」と「ペクンチ」は何でも相談しあうようになった。

ただ、そういうことがあってから、今でも「アペクンチ」だけは、その大火事の影響で木が大きく育たなくなっているのだ。

## 3. 関連・先行研究

黒川セツさんがアイヌ文化研究に関する各種聞き取り調査や記録作成に協力するようになったのは1980年代頃からである。それ以後、多くの研究者や北海道教育委員会などによる聞き取り調査、映像記録作製に協力し、既にいくつかの文字化または映像化されたものがある。

なかでも昔のアイヌの暮らしや植物利用に関しては、平成8、9年度の『アイヌ民俗文化財調査

---

(1) 海拔103mの小山 (図2参照)

(2) 海拔218m (図2参照)

(3) 黒川セツさんは「カムイ」について日本語で説明する時、「神様」ということばを使用する。

報告書』(北海道教育委員会、1997、98年)や貝澤太一「沙流川中流域におけるイナウに使用する樹木に関する報告」(1)(2)、『北海道立アイヌ民族文化研究センター研究紀要』2、3号、1996、97年)などの報告書があるほか、『アイヌ文化を学ぶ』(アイヌ無形文化伝承保存会、1993年)などの映像記録があり、またセツさん自身の生い立ちや生活体験記録では、川上勇治「発疹チフスコタンを襲う」(『エカシとフチ』札幌テレビ放送株式会社、1983年)、小川正人「私の歩み：黒川セツ」(『北海道立アイヌ民族文化研究センター研究紀要』第7号、2001年)などがある。

しかしながら、今回の報告に関するものは、これらの出版物では未だ報告されていない。また、『平取町史』や『郷土史におい』などの郷土史関係の文献には、地名や土地の伝承に関する記述が見られるものがあるが、今回報告する「アペクンチ」「ペクンチ」に関する話などは、これまで出版された郷土史関係の文献にも見られないものである。

黒川セツさん自身にとっても、この話は今まで訪ねてきた研究者などに語ったことはなく、自分にとっても思い入れの深い伝承であるとのことであった。したがって、今後セツさんの聞き取りを順次報告するにあたって、最初にこの伝承の紹介を行うのは、この報告をセツさんの意思に応えるものにしていきたいという著者の意図にもよっている。

#### 4. 貫気別の概要

平取町貫気別は、日高西部を流れる沙流川の支流である額平川流域と、その支流貫気別川の合流点付近の半径4 km程の地域を指す。

山間の地形ではあるが、川岸にはいくらかの平地が広がり、大規模ではないが稲作を生業とする農家も点在する。

この地域を囲むように存在する山々には、カラマツやトドマツなどの人工林と、ミズナラやイタヤカエデ、ケヤマハンノキなどの広葉樹を含む混交林が点在している。混交林では山菜などの野草(ギョウジャニンニク、ニリンソウ、オオウバユリ、モミジソウなど)が見られる。

## II. 調査経過

黒川セツさんからの聞き取り調査は1995年(平成7年)から開始し、現在も続いている。このうち今回の報告に使用した聞き取りの記録は下記のとおりである。録音・録画時間の合計は約15時間である。

- (1) 1997(平成9)年6月4日調査(資料番号：CC000566、CC000567(音声資料)、CC000837(映像資料))

黒川セツさんの自宅付近を中心に、その地域にまつわる話について聞き取りを行いながら、その話題となった場所を訪ねた。(図1 範囲①)

その際に、アペクンチ、ペクンチ、チャシコチ、カムイクナイ、フシココタン、ピリケブオンナ

イ、ニシリケシ、ヌブキオンナイ、イペペシナイに関する貴重な話をしていただいた。また、食用とした植物の話、一緒に暮らした祖母（フチ）や祖父（エカシ）の話もしていただいた。

(2) 1997(平成9年7月17日調査(資料番号 CC000568、CC000569(音声資料)、CC000838、CC000839、CC000840 (映像資料))

貫気別川合流点より上流域を中心に、黒川セツさんが造林の仕事をしてきた場所を訪ねた。(図1 範囲②)

その際に、セタナイ、チセニカルシナイ、エサンピラ、キキンニウンコタンに関するお話をしていただいた。

(3) 1997(平成9)年8月6日調査(資料番号 CC000571、CC000572(音声資料))

貫気別川合流点より下流域を中心に、荷負本村付近にまつわる話について聞き取りながら、その話題となった場所を訪ねた。(図1 範囲③)

その際に、シケレベコタン、パンケオタスイ、ペンケオタスイ、ニス、ムイ、イユタニ、ウンチャシ、テシコル、ポンフルカ、ポロフルカに関する貴重な話をしていただいた。

(4) 1997(平成9)年10月15日補足調査(資料番号 CC000576、CC000577(音声資料))

貫気別川合流点より上流域について、7月17日に調査を行った地域よりもさらに上流について調査を行った。(図1 範囲③)

その際に、貫気別から振内へ抜ける道の近辺に位置するタユシナイという沢に入り、昔から地元の人々が、病気治療や入浴用に使っていた冷泉の場所について確認し、それにまつわる貴重な話をしていただいた。

(5) 2002(平成14)年12月19日補足調査(資料番号 CC001217、CC001218(音声資料))

黒川セツさんの自宅で、以前の聞き取りについて、確認を行った。

今回の報告では以上の聞き取りから、「アベクンチとペクンチの伝承」に関わる部分を、その話題に沿って並べ替えた。

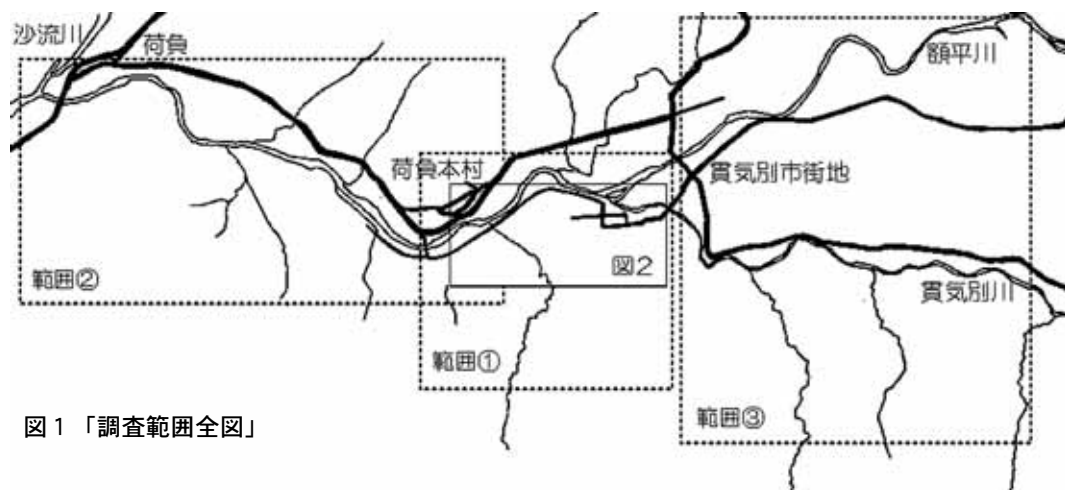


図1 「調査範囲全図」

### Ⅲ. 黒川セツさんの語り

この「アベクンチ」と「ペクンチ」の言い伝えを聞くにあたり、その場所を確認するために屋外での調査を行った。

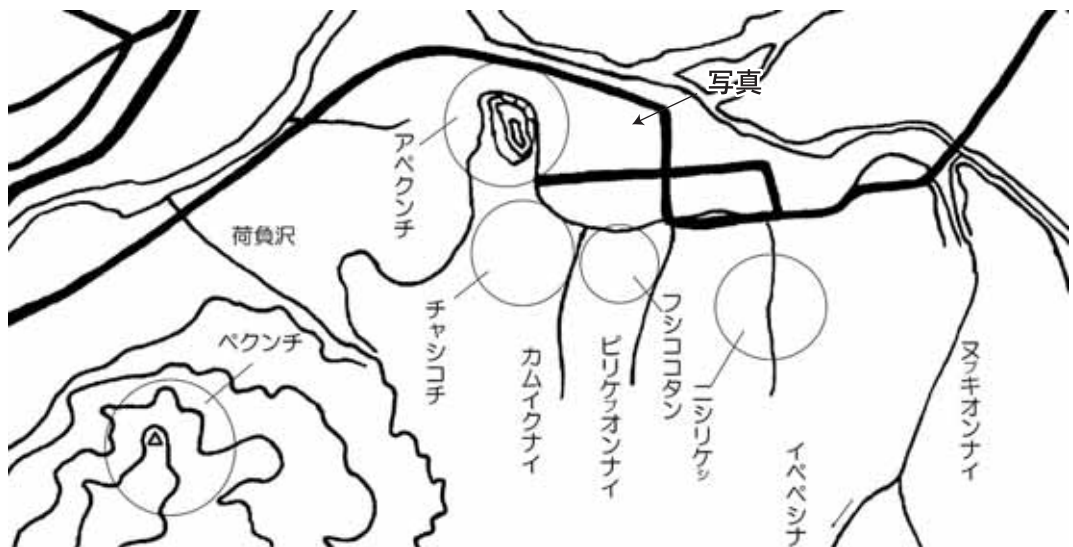
図2の「フシココタン」から「チャシコチ」を通り「アベクンチ」のふもとまで歩き、「チャシコチ」に隣接する「アベクンチ」の場所を確認した（1997（平成9）年6月4日調査）。その場所からは、途中のカラマツ林で「ペクンチ」が見えなかったため、後日、額平川の下流で調査した際に対岸より場所を確認した。（1997（平成9）年8月6日調査）

言い伝えの内容は、屋外ではさわりを聞く程度にとどめ、自宅に戻ってから詳しく聞き取った。また言い伝えを話し終えた後に、これを祖母から聞ききっかけとなった出来事についても話してくれた。

子供の頃、非常に活発で男の子のようだった黒川セツさんは、あるとき額平川の河原で遊んでいたとき、その近くにある小山の「アベクンチ」にも遊びに行った。そこに綺麗な黒光りする木があったので、家に持って帰った。それを見た祖母が「アベクンチにある物は、アベクンチの神様のものだから返してきなさい。」といわれた。仕方がないので、その木を返しに行ったが、そのとき「アベクンチ」と「ペクンチ」に関する言い伝えを聞いた。

この言い伝えには、「カムイが住んでいる所にあるものは、人間が簡単に取ったり触ったりしてはいけない。」という教訓が語られており、黒川セツさんが常日頃から強く持っている「カムイ」に対する畏敬の念をよく表している。土地に対してのアイヌの考え方を伺い知る言い伝えの一つで

図2 「アベクンチとペクンチの位置」



写真「本報告の全景（アペクンチを額平川上流側より望む）」



図3「同地形図」



ある。

以下、聞き取りの本文を紹介する。

## 1. 凡例

本文では、黒川セツさんの語りをそのまま文字化することで、セツさんの語り口調や調査の雰囲気を残すこととした。

本文中では、黒川セツさんの発言以外は、質問者の貝澤の発言を（ ）でくくり、同席して調査に協力いただいた青木トキさんの発言は〈 〉でくくった。

聞き取り資料は、物語の関係部分のみを掲載して、それ以外は〔中略〕とした。

本文中のアイヌ語地名に関してはカタカナ表記とし、解説などでは「 」でくくった。同じく、「ワシ」「ウチ」「エカン」「フチ」などの人称名や「タバコ」などについてもカタカタ表記とした。



## 2. 本文

### 「アペクンチ」と「ペクンチ」の呼び名について

その山よ、アペクンチ。

(この…この山でしょう?)

あれ、あの松、真っ直ぐ立って見える。これが、アペクンチ。

(アペクンチ?)

アペクンチっていう山。

(これが、このあいだ話してくれた山だ。)

この辺からの方がよく写るんでないか。これ、なにも邪魔ものないから。

[中略]

(ここは<sup>(4)</sup>コタンは無かったんでしょう?)

ここはコタンない。したから、そこがフシココタンよ。そこ。その平ら。今帰りに寄ってみる。

そのフシココタンあって、そこで3軒あって、その向かいに、今度ずうっと…あの、部落あったの。だからそれが、

(その向かい。あの、いま田んぼになっているところ?)

いや、違う、まだ向うのあの平らで、アスパラ撒いたりなんだりしているけれど、あそこもコタンだったの。

そこが、フシココタンっちゅうの。昔の貫気別のフシココタンっちゅうのはここよ。

(フシココタンったらどういう意味だっけ?)

「古いコタン」よ。「古い部落」。

そして、ここがチャシコチよ。

これがアペクンチっていう山で、その下で、ここで、やっぱり1軒ぐらい家あったらしいよ。

うん、チャシコチ。

(ペクンチがどれだっけ?)

ペクンチは、本村の向いだから、こっから見えないわ。

でも、たぶん向こうさ行けば見えるかもしれない。

これがチャシコチ。

(チャシコチ。)

うん。ここが。チャシコチ。でそこで、アペクンチ、ペクンチで、その<sup>らくよう(5)</sup>落葉 ないば本村の向かいの山、見えるんだけども。

---

(4) チャシコチを指す

(5) カラマツの別名

[中略]

さぁここはチャシコチ。覚えとけよ。そしてあそこはアペクンチっていう山。

いま今度ここ、どうするべね。このペクンチっていう山も写すか？

(1997年6月4日)

### 「アペクンチ」と「ペクンチ」の言い伝えについて

でそこで、アペクンチ、ペクンチで、そのの落葉ないば本村の向かいの、山見えるんだけども。これがアペクンチで、これが火事になって燃えて、ぼんぼん燃えるのに、今度、そっちのペクンチとアペクンチと仲悪いものだから、消してくれないんだとよ。

そしたけ、「これから、おまえの言うことなんでも聞くから、仲良くするべ。そして、頼むから俺のチャシコチ、俺のチャシコチっていうのは、自分の場所って言うんだからね。「したからここを、消してくれ。」って言って頼みだけ、向こうからどっしゃぶりに雨が降ってきたんだと。そしてこれ一気に消したもんなんだと。

それからおがった木だから、ま、百年できかんべね。

(あ、そうか。あそこなんて、山切りに入ってないんでないの？山、木切ってないよね？ あそこね。)

うん、木切ってないのにこれだけしか木生えないんだから、あんまり木伸びないんだわ。百年ぐらい経つよ。

(1997年6月4日)

(アペクンチとペク…アペクンチとさぁ…アペクンチとペクンチって仲が悪くって、で、アペクンチが火事になったときにペクンチにお願いしたんだよね。)

うん、そうそうそう。

(で、それ火消してくれって…)

もう、「これからは、あの、何事もお前の言うことを聞いて、お互いに相談して仲良くしていこう。」っていうことを、今度アペクンチがペクンチに頼んだの。してあれ、本村の向かいの高い山がそうなんだ。ペクンチ。

(うん。)

そして…そしたら、急にそうやってアペクンチが、あのお、お願いしたら、こんどあの、雨、土砂降りに降って、そして現在その山がそうなんだから。その、…

(その、ポコンとなっている所でしょ？そこが、ア…ペクンチでしょ？アペクンチでしょ？)

そうそうそう。アペクンチ。うん。

そして、その向かいのおっきな山が、ペクンチ。

(ペクンチ。)

そして、雨降ったおかげで、その山が綺麗に消してもらって、それから今度仲良くなって、何でもお互いが相談してやったもんなんだって。昔のその、このペクンチとアペクンチはね。

(じゃあ、チャシコチはあれだね。ペクンチとアペクンチに近いよね。)

近い近い。だって、あのアペクンチの山の下がチャシコチだからね。そして本村の荷負沢を越えていった、あの大きな山が、道路から見えるこんな山あるっしょ。高い山。あれがペクンチ。

だからアペクンチとペクンチはすっごく仲悪くて、何事あっても絶対に見向きもしない、お互いに何事も相談しないでいたんだけど、アペクンチの山が焼けたべき。

そしたらアペクンチは、今度一生懸命になってカムイノミしてお願いしたんだべき。そのペクンチに「頼むから今まではね、お前と仲悪かったけど、これからは何事もお互いに相談してやっていきたいから、頼むから俺のチャシ…って自分の屋敷を、雨降らして消してくれ。」って頼んだらしいんだね。

[中略]

(したら俺は、ばあちゃんの話聞いたときに、チャシコチっていうのは、アペクンチとペクンチの仲を取り持ったんだと思ったの。)

チャシコチか？チャシコチっていうのは、どこにでもチャシコッてあるけど、やっぱりそこに、誰かがなにかつくて、そしてそのアペクンチの下が畑だからね。だ、そこもやっぱりアペクンチの屋敷だったのかもしれないんだ。

そして、ペクンチは、本村の向かいで。

(2002年12月19日)

## のちの黒川セツさん自身の体験について

そう言う風なあれで、うーん、ワシ子供のころにその山さ上がったら、木、やっぱり焼けた木が、真っ黒な木、あって持ってきて、フチ達に怒られたことあるんだ。

(ああ、そうなんだ。それは、いたずらで?)

やっぱり、何十年って、残っていたわ。

(それはいたずらして、もっ…取りに行ったの?)

いや、なんか、そこの河原さ遊びに行つて、男の子みたくすっごく、あのお、気性があれなものだから、その山登りでも川登りでも、何でも男の子みたいなことやるもんだから、あの山さ登ったんだわ。

そしたらその、こんな木が真っ黒なって、焼けた、あの焼け焦げたような木が立ってるんだ。それを今度、引っ張って家に帰ってきたの。

だけ、ウチのフチが「どっから取ってきた？」って言うから、「あの山。河原さ行って遊んでいただけ、山に上がって取ってきた」ったけ、「あそこは、神さんの住んでた所だから、そこで焼けた、火事になって焼けたんだけど、そこの木は絶対取ってならん、ちゅうことで、誰えも、いっぱ

いあっても取らなかったんだって。それだのお前はそうやって取ってきて、神様に怒られるから、行ってその場所さ戻してこい。」って言われて。そしてその場所まで、その木をまた引っ張って行って置いて来たことある。

それで、その意味がもう、フチが全部説明してくれて、それでわかったわけ。

だからこの、アペクンチ、ペクンチって言うのはね、この辺で知っていたの西島のばあさん。ワシあそこさ雇いしたときに、西島のばあさんが言っていたから。やっぱりああいう年代の人達は、やっぱり知っていたみたい。うん。

で、ウチのフチも本村に生まれ育ちだから、本村にいたから、あのぉ、良く細かく知っていたと思う。うん。

[中略]

(それで、その元にその木を返しに行ったの。)

うん。そこの場所にね置いてきたの。持ってって置いてこいって言われてね。

火に…ここさ燃やしたら、焚き火だから昔はね。で、だけど、焚くことできないんだと。神様のものだから、そんな無駄にはできないんだから、持ってって置いて来いっていうから置いてきた。うん。

(あの、フチは住んでいたって言ったんでしょ？神様が住んでいたところだったの？)

うん、そそそ。

(したら、ばあちゃんのときは、もう神様は住んでいなかったのかな？)

ワシらのときもまだいたっ…そりゃあカムイだから、自分の屋敷だからそこにいたかも知らんけど、我々人間には、神様住んでたところだ、って聞かされたって、どんな処にいたかどうい風なあれだかもわからないけど、やっぱりそこで、アペクンチって、神様が住んでいたんだっていうことはね、ウチのフチも言って聞いたけど、西島のばあさんも言って聞いたの。

それじゃあハッキリこの、アペクンチ、ペクンチの意味てね、「いやぁすごいもんだな。神様同士もやっぱり仲悪いばこんなことあるのかなぁ。」と思って聞いていたから。

(2002年12月19日)

## 参考文献

- ・渡辺 茂、河野本道（編）1974 『平取町史』 平取町
- ・川上勇治1983 「発疹チフスコタンを襲う」『エカシとフチ』 札幌テレビ放送株式会社
- ・荷負自治会（編）1988 『郷土史におい』 北海道出版企画センター
- ・北海道教育委員会1997 『平成8年度 アイヌ民俗文化財調査報告書（アイヌ民俗調査XVI）』  
北海道教育委員会
- ・北海道教育委員会1998 『平成9年度 アイヌ民俗文化財調査報告書（アイヌ民俗調査XVII）』  
北海道教育委員会
- ・小川正人2001 「私の歩み：黒川セツ」『北海道立アイヌ民族文化研究センター研究紀要 第7号』 北海道立アイヌ民族文化研究センター